



さあ、答え合わせをしよう！

Vol.88 お宝ベスト5～栃木県(とちぎけん)

※ココを見てね! ▶ 栃木県～「お宝ベスト5」

1. 2018年、フランスのパリで開催(かいさい)された「ジャポニズム2018特別展」で、世界の人々から注目(ちゅうもく)をあつめた栃木県(とちぎけん)のお宝は、何ですか？

正解:②イヌ形土製品(いぬがたどせいひん)

答えの候補(こうほ)にあげられている3つは、いずれもこのフランスの展覧会に出品(しゅっぴん)され、世界の人々から高い評価(ひょうか)をうけました。しかし、「栃木県(とちぎけん)のお宝」をたずねていますから、正解は、②イヌ形土製品(いぬがたどせいひん)です。藤岡神社遺跡(ふじおかじんじやいせき)から出土(しゅつど)したこのイヌは、前足(まえあし)を踏(ふ)ん張(ば)って、今にも「ワン、ワン」と吠(ほ)たてそうな気配(けはい)をただよわせています。よく見ると、おへそまで表現(ひょうげん)されています。しかも✕(ばってん)。縄文人(じょうもんじん)にも、おへそは現代(げんだい)の漫画(まんが)で描(えが)くのと同じように見えていたようです。

2. 下野七廻り鏡塚古墳では、国内最大級の舟形木棺がみつかりました。さて、材質は、何だったかな？

正解:③ヒノキ

「お宝ベスト5」5つ目を見てください。きれいに原形(げんけい)をとどめているこの木棺(もっかん)は、1500年という長い時間、土の中に埋(う)もれていました。それには、木棺(もっかん)の材質(ざいしつ)が丈夫なヒノキだったことも大きく影響(えいきょう)しています。ヒノキは水に強く、シロアリや木材を朽(く)ち、腐(くさ)らせる菌(きん)に強いため、現代(げんだい)でも住宅の一番重要(じゅうよう)な土台(どだい)や柱(はしら)などの構造材(こうぞうざい)に使われることが多く、伐採(ばっさい)した後200年間は強くなり、その後1000年かけて徐々(じょじょ)に弱(よわ)くなるという特徴(とくちょう)があります。その耐久性(たいきゅうせい)の高さから、1300年前に建てられた法隆寺(ほうりゅうじ)や薬師寺(やくしじ)などの歴史(れきし)ある建造物(けんぞうぶつ)にもヒノキがもちいられています。正解は③ヒノキ。香(かお)りがよくリラックス効果(こうか)もあります。

3. 大塚古墳群内遺跡から出土した土器には、あるものがついていました。さて、何がついていたのかな？

正解:③人の顔

弥生時代中頃(やよいじだいなかごろ)の東日本では、白骨化(はっこつか)した骨(ほね)を遺骨(いこつ)として壺(つぼ)などに入れて埋納(まいそう)する、再葬墓(さいそうぼ)が多くみられます。そして、そのときに骨(ほね)を入れるための容器(ようき)としてもちいられたのが、人面土器(じんめんどき)だったと考えられています。正解は、③人の顔。古墳時代(こふんじだい)に登場(とうじょう)する埴輪(はにわ)には馬の形をしたものもありますが、土器(どき)に馬が付いたものはみあたりません。亀(かめ)も同じ。遺骨(いこつ)を入れて埋葬(まいそう)するのですから、きっと、「この中には、人が入っていますよ」という印、メッセージだったのかもしれないね。